校内研だより　no.３

四万十市立西土佐中学校
2020 年 6 月 26 日 文責：福田

「生き方につながる豊かな学力の保障～主体的・対話的で深い学びの推進（言語活動と教科間連携）～

第２回全校研“３年音楽　ブルタバ ”川村先生

授業前の休み時間から和やかな音楽教室。授業が始まると、先日のカヌー体験と関連付けた導入から、「ブルタバ」の最初を聴かせてイメージをふくらませました。音楽好きな３年生はすっかり「ブルタバ」の世界に引き込まれたようでした。

場面を提示した後、場面に分けて聞き取らせ、どの場面だと考えるのか、ワークシートに根拠（諸要素）を記述させました。５つの場面ごとに個人⇒グループ⇒全体の順で確かめました。

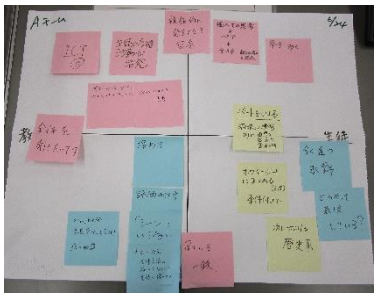
合同チーム会での指導案検討、Ｂチームでの模擬授業を経て、導入で「ブルタバ」の一部を聴かせること、まとめで曲全体を聴き、感想を書くことを付け加えたということでした。通して聞くと１０分かかる曲です。場面ごとに話し合わせる間もその場面の曲を流す工夫がありました。３年生は、一人ひとりがよく書き込み、意欲的に発表もできていました。

授業後の協議《合同チーム会》

授業者より⇒チーム会⇒発表⇒まとめ⇒指導・助言⇒わたしの授業改善

前日に行われた西土佐小学校の６年国語の研究授業でも感じたことですが、展開の全体共有の場面での深め方が難しいです。展開の部分での評価の仕方にも意見が出されました。

	展開の全体共有で深める	評価の仕方
課題	▲個人⇒グループ（ペア）⇒全体の流れが５回繰り返され、単調になった。 ▲全体での発表が先生とだけのやり取りになっている。 ▲グループ（ペア）での意見交流での発言と全体交流での発表が同じになっている	▲全体共有での発表の場面で、生徒の発言に対して先生がすぐに反応して評価している。
改善策	●取り上げる場面をしぼる ５つの場面を取り上げていたが、川のイメージから入ったのだから、川の場面にしぼったらよかった。「源流」は全体でやり方を理解するために使い、後の３つを生徒に鑑賞させる。 ●意見の共有 班での話し合いでホワイトボードを活用する。諸要素を必ず使うよう条件を付けて、班で意見を出し合わせ、出た意見を発表させる。同じ意見や違う意見を言わせる。意見や感想をつなげる。	



指導・助言（教育センター　小笠原　実代指導主事より）

（１）教科の見方・考え方を働かせる場面は展開の４。その全体共有の場面で違和感をもった。生徒は言語活動がよくできており、発言の態度も聞く姿勢も良かったが、教師に発表していた。言語化できないものを音楽で表現しているのが音楽というものなので、音楽にもどる必要がある。鑑賞を深める手がかりが生徒の発言にたくさんあったが、スルーしてしまっている。たとえば「チョロチョロ」。そこから広げられた。

（２）どこかの部分を取り上げて、聴き方を学ばせる場面が必要。そこで一つ一つの要素を確認すべき。その後、班に任せる。全体で聴かせるのではなく、班ごとにデッキを渡せばよい。

（３）子どもの様子を観察し、曲を聴かせた後、「どうして目をつぶっていたの？」などと入ると、感性を働かせられる。板書がなかった。楽譜も見せたい。振り返りには視点を与え、自己変容が見取れるよう工夫したい。

わたしの授業改善

○学習内容をしぼる！

○いかに題材に興味を持たせ続けるのか？

○常にふり返り。
○out put を意識して。
○状況設定

○課題に対する比較（気付き）

○言語活動
　生徒の意見を掘り下げる、逃さない、深める

○全体共有のときに、生徒同士の対話ができるような手立てを考える

○見方考え方にせまるポイントをしぼり、生徒の言葉、気付きをひろう！

○教科の見方・考え方
○全体共有での深め方
○振り返りの視点

○共有
　全体発表をさせる意図を明確にさせる！！

小笠原指導主事から参考資料を２種類いただいていますので、実践に生かしてください。

全校研で２回、そしてチーム研で各チームが１回ずつ、指導案検討と模擬授業を行いました。授業者の意図やその単元・授業のねらいを確認し、学年の子どもたちの顔を思い浮かべながら、ともに授業づくりをすることで、他教科の授業でありながら、自分も関わっている意識をもてるようになってきたのではないでしょうか。

見方・考え方を働かせて言語活動を充実させることを、子どもたち自身が楽しめるよう、今後もみんなでがんばっていきましょう。